

令和元年度 島田市立島田第二中学校



二中だより 11月号

☆校訓 **文化の薫る学校**

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

☆合い言葉 「 愛 ・ 自治 」

令和元年 11月1日 発行

「世界一の学校になるために」

10月の島二中文化祭では、生徒自らによる運営を基に、展示部門・ステージ部門(合唱、吹奏楽、スピーチ)などが、私たちに多くの感動を与えてくれました。ステージ上の文化祭看板一つとっても、どれほどの時間と思いが込められていたのでしょうか。特に合唱では、3年生を筆頭に高いレベルの競い合いとなり、「文化の薫る学校」を存分に見せてくれました。まさに島二中が「One Team」になった瞬間でした。この体験が次のステージに生かされることを心から期待しています。

さて、10月11日に姉妹都市、姉妹校となっている中国湖州市職員や湖州四中職員の4人が来校しました。島二中とは15年前(2004年11月)に姉妹校提携を結んでいます。私もそうですが、来校職員が15年前の調印式に出席していたことに驚きました。中国の急激な発展により、昔ほど頻繁な日中交流はなくなりましたが、現在の中国の経済力や海外志向は依然変わらず、富裕層はもちろん、そうでない家庭の多くの子供達が、欧米へ留学し語学や国際社会について学んでいます。島二中へ来られた中国訪問団の方々からは、「子供達の合唱のレベルの高さに驚いた」「教師の指示なく自分たちで合唱に取り組んでいる姿にたいへん感銘を覚えた」などの感想をいただきました。

また、10月15日には、モンゴル国ナラン外国語学校生徒6人(主に12歳)と引率教師1人が来校しました。モンゴルの子供達に日本の感想を聞いたところ「湿度が高いが緑が多い」「電車やバスが必ず時間ちょうどに来る」「自転車に乗る人がたくさんいる(モンゴルでは危険)」「理科の実験をさまざまな機器を使ってやっている」その他にも「モンゴルでも、昔は冬期-30℃程だったが、最近は暖かい日が多くなっている」「サッカー人気が高まっている」「ナラン外国語学校の卒業生の多くが日本に留学している」と言っていました。その目はとても輝いており、中国が日本を追い越し世界第2位の経済大国になったように、モンゴルが日本に追いつくのも時間の問題かもしれません。島二中の生徒達も、このような交流を通して「世界へ、将来へ」自分の夢に向かって、努力してほしいと思います。

ところで、島二中にも海外5カ国以上、それぞれにルーツを持つ生徒がいます。中には、さまざまな理由で苦勞している人もいます。ですから、島二中には既に、世界に触れあえる環境があるとも言えます。国際交流は、まず、相手の理解から始まります。もし、クラスメイトに海外にルーツを持つ人がいたならば(もし、悩んでいる人がいたならば)、その国や文化等(その人のこと)を理解する必要があります。「海外にルーツをもつ(さまざまな事情をもつ)人がいる」ということは、島二中の強みにもなりうることも考えられるのです。もし、それを克服することができれば、島二中は、差別やいじめのない7月に職員室前の七夕飾りにあった、「二中が世界一の学校になりますように!(3年生徒)」の夢が実現するのです。



校長 池谷 英人